

平成23年7月の解説（府県天気予報）

【7月の天候状況】

月のはじめは梅雨前線の影響により北・東・西日本では曇りや雨の日が多く、北日本では南からの暖かい気流の影響で気温が平年を大きく上回りました。上旬後半から月半ばにかけては太平洋高気圧が日本付近で強まり、上空の偏西風も北に蛇行し暖かい空気に覆われやすくなったことから、東日本を中心に所々で猛暑日となりました。なお、四国、中国、近畿、東海地方では8日ごろ、九州北部、関東甲信、北陸地方では9日ごろ、東北南部、東北北部では11日ごろ、梅雨明けしました（いずれも速報値）。

中旬後半には日本付近での太平洋高気圧の勢力は弱まり、18日には台風第6号が四国の南を北上、20日には徳島県南部に上陸した後、潮岬付近を通過、その後本州の南海上を南東進しました。東・西日本の太平洋側を中心に大雨となり、四国や紀伊半島などの所々では総降水量が1,000ミリ前後となる記録的な大雨となりました。

下旬は、上空の寒気や湿った気流の影響により、北海道を除いて雲が広がりやすく、所々でわか雨や雷雨となりました。27～30日にかけては、新潟県と福島県会津を中心に大雨となり、4日間の総降水量が7月の平年の月降水量の2倍以上に相当する記録的な大雨となり甚大な災害が発生しました（「平成23年7月新潟・福島豪雨」）。

月平均気温は北日本から西日本にかけて高く、北・東日本では平年を1℃以上上回りました。沖縄・奄美では平年並となりました。月降水量は北日本の太平洋側、西日本の日本海側、沖縄・奄美で少なく、北日本の日本海側、東日本では平年並、西日本の太平洋側では多くなりました。月間日照時間は北・東日本の太平洋側、西日本の日本海側で多く、北・東日本の日本海側、西日本の太平洋側では平年並、沖縄・奄美では少なくなりました。

【7月の検証結果】

17時発表の天気予報による「降水の有無」の全国平均の適中率は、明日予報は78%と例年値^(注)より1ポイント低く、明後日予報は77%と例年値より3ポイント高くなりました。各地方の適中率では、明日予報は北海道地方で例年値より5ポイント高くなりましたが、東北地方では8ポイント低くなりました。明後日予報は北海道地方と関東地方で8～9ポイント高くなりましたが、沖縄地方では8ポイント低くなりました。

明日の最高気温の予報誤差は例年値程度の地方が多く、北日本と関東甲信地方では例年値に比べ0.4～0.5℃小さく全国平均は1.7℃でした。最低気温の予報誤差は例年値程度で、全国平均は例年値となる1.2℃でした。

^(注) 例年値は気象庁HP（予報精度検証）内「月毎の精度の例年値」を参照してください。

【9月の天気予報の利用にあたって】

9月は、しばしば強い勢力の台風が上陸し、前線の影響も加わるため雨の降り出しが早まり、降水量が多くなることが特徴です。また、天文潮が高い時期のため台風の接近に伴い高潮による被害が顕著となることもあります。これまでに日本に大きな災害をもたらした台風の多くは9月に日本付近へ接近・上陸しています。台風が日本付近に接近、または通過すると予想されている場合には、最新の台風情報や警報・注意報など気象情報に十分留意して下さい。